

# 「平成30年度全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立根本名小学校】

平成30年4月17日(火)に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の実施結果についてお知らせします。

## 1 児童が受けた調査について

「国語A・B」,「算数A・B」,「理科」,「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

### (1) 教科に関する調査

〔主として「知識」〕 国語A, 算数A, 理科	〔主として「活用」〕 国語B, 算数B, 理科
身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

出題範囲：調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則

### (2) 児童に対する質問紙調査

学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査

\*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/18chousa/18chousa.htm>

## 2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

### (1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率(以下全国平均)との比較)

国語A(知識)	基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能に関する問題	C
国語B(活用)	基礎的な知識・技能を活用する問題	C
算数A(知識)	数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能に関する問題	C
算数B(活用)	基本的・基礎的な知識・技能を活用する問題	C
理科(知識・活用)	『知識』に関する問題及び『活用』に関する問題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

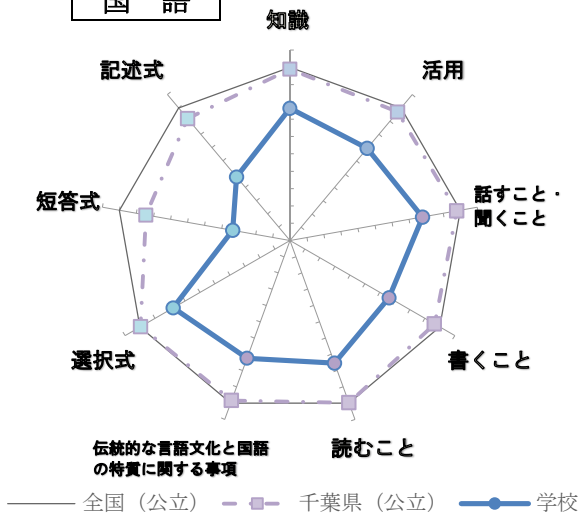
A : +5.0%より上回っている場合「良好」

B : +5.0%~-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C : -5.0%より下回っている場合「要改善」

## (2) 教科ごとの分析

### 国語



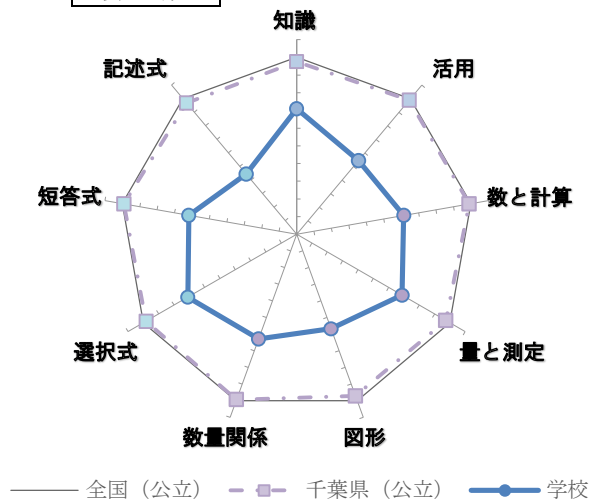
#### 【特徴と現状】

- 全体的に全国平均と比較して正答率が下回っています。
- 「短答式」「記述式」の形式において、正答率が大きく下がっています。
- 文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことに課題があります。
- 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことに課題があります。
- 話し相手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることに課題があります。

#### 【改善方策等】

- 主語と述語、修飾と被修飾との関係をはっきりさせるとともに、「だれが」「いつ」「どこで」「なにを」「どのように」「なぜ」などという文の構成について指導してまいります。
- 相手の話の内容を十分聞き取り、自分の考えと比べ、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理し、自分の考えをまとめられるよう指導してまいります。
- 目的や意図に応じてメモから適切な内容を取り上げて、相手に伝わるように文章を書くことができるよう指導してまいります。

### 算数



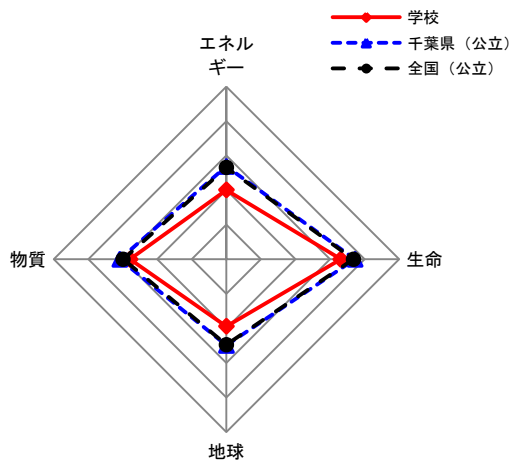
#### 【特徴と現状】

- 全体的に全国平均と比較して正答率が下回っています。
- 「短答式」「記述式」の形式において、正答率が大きく下がっています。
- 円周率の意味についての理解に課題があります。
- 分度器を用いて、 $180^\circ$ よりも大きい角の大きさを求めることに課題があります。
- メモの情報とグラフを関連づけ、総数や変化に着目していることを解釈することに課題があります。

#### 【改善方策等】

- 測定する角の大きさがどの角であるのかを意識して、分度器を用いて測定する活動を充実させてまいります。
- 直径と円周の関係を調べる学習で、実際にいくつかの円について、直径の長さや円周の長さを測定する活動を充実させてまいります。
- 複数の観点で示された情報とグラフを関連づけて解釈したり、表現したりする活動を充実させてまいります。

## 理科



### 【特徴と現状】

- 全体的に全国平均と比較して正答率が下回っています。
- 「記述式」の形式において、正答率が大きく下がっています。
- より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述することに課題があります。
- 実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、それを記述することに課題があります。

### 【改善方策等】

- 川を流れる水の量と地面の削られ方についての学習では、斜面に一度に流す水の量と立てた棒の様子との関係から、根拠や理由を示しながら自分の考えを説明する活動を充実させてまいります。
- 一般化した規則性を導き出すために、1つの事象で見られた現象だけでなく、複数の事象で見られた現象で検討する活動を充実させてまいります。

### (3) 児童質問紙の結果及び分析

児童質問紙の解答から、以下の項目で、学力との優位な相関が見られました。

#### <学校外での生活>

(2 3) 地域社会などでボランティア活動に参加したことがある

(5 4) 今、社会のことがらや自然のことがらに、「不思議だな」「おもしろいな」などと思う

#### <学校内での生活>

(1 1) 学校の宿題をしている

(3 5) 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている

(5 5) 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う

学校外での生活が、学力に良い影響を与えているようです。大人や他校の児童、異学年の友達との関わりが社会生活だけでなく、学力にも結びついていると考えられます。

自分で勉強の計画を立て、授業に取り組んでいる子どもたちに良い結果が出ているようです。また、授業を受ける態度について、話をよく聞き、ノートを見やすく書いている子たちも同様に学力が高い傾向にあります。

### 3 まとめ

全体的に学力を向上させていくことが必要になっています。「記述式」の形式の正答率が全国平均と比較して大きく下回っています。「無解答率」も高く、子どもたちは、問題に対して諦めてしまう傾向にあるようです。問題の意図を理解し、粘り強く解答する子どもの育成について指導方法の工夫・改善に努めてまいります。

正答率が高い児童は、以下の質問において肯定的な回答が見られました。

- ・「ボランティア活動に参加している」
- ・「社会のことがらや自然のことがらに興味をもつ」
- ・「学校の宿題をしている」
- ・「新しい学習内容を理解しようとしている」
- ・「課題の解決に向け、自分で考え進んで取り組んでいる」

家庭での生活・学習習慣と学力に関連があると考えられます。学校でも生活改善を図るための指導を行います。ご家庭でもお子様の生活と照らし合わせて話題にしていいただければ幸いです。